

大飯4号で警報鳴る

誤作動かきょう発送電開始

関西電力は10日、再稼働したばかりの大飯原発4号機（加圧水型軽水炉、出力118万瓩）で、蒸気発生器の水位低下を示す警報が作動したと発表した。中央制御室の計器の数値に異常がないため、水位計1台の誤作動とみている。関電は「当該の水位計を点検して異常がないことが確

認されたため、原子炉出力上昇の操作を再開する」と説明。今後の工程や周辺環境への影響はないとしている。関電は高浜町のプレスセンターで午後10時から会見した。午後5時38分、原子炉格納容器内にある蒸気発生器の水位計1台から水位低下を示す警報が作動。1秒後に正常

値に戻った。蒸気発生器は4台あり、それぞれに水位計が4台ずつ付いている。今回、警報信号を出したのは、蒸気発生器1台の水位計1台だけで、ほかの水位計3台は規定値内で変動がなかった。水位計4台のうち2台以上から異常を示す信号が出れば、原子炉が

自動停止（トリップ）する。関電は「誤作動の原因は、現時点で分からない」としている。

大飯4号機は9日午後5時に再稼働し、10日午前3時に原子炉内で核分裂反応が連続する「臨界」に達した。関電は警報が作動したことから、原子炉の出力を上昇させる操作を一時中断。調査の結果、問題がないとみて出力を上げ、当初の計画通り、11日午後5時ごろの発電・送電に向け作業を進める。

（前田卓、牧野将寛）